2K-07

# 母体救急搬送における情報共有補助システム iPicss の災害時小児・周産期リエゾン用情報共有システムへの転用について

山下　範之†　　牧　尉太†

岡山大学‡

## 1. はじめに

2018 年 7 月に発生した西日本豪雨[1]時，共同演者の産婦人科医師が災害時小児・周産期リエゾン（以後、リエゾン）として活動した際の情報収集ならびに共有についての課題点を洗い出し，iPicss（アイピクス：i- Perinatal integrated conveying sheet system）の転用を現在，議論している．iPicss をリエゾンに転用したモードを iPicss 災害モード（仮）と名付けた．本発表では，iPicss 災害モードの位置付けや収集する情報の精査を通し，アプリの画面構成と運用の概要について述べる．

## 2. iPicss とは

iPicss は，妊婦の産前・産後の緊急事態をサポートするフレームワークであり，岡山県で導入している OKAYAMA Picss のより円滑な利用に向けたシステムである．システム概要や検証結果については，情報処理学会　第 142 回情報システムと社会環境研究会[2]ならびに情報処理学会　第 80 回全国大会[3]に記している．

## 3. iPicss の整備状況

現在は，BYOD（Bring Your Own Device）の状態でパイロットスタディを行なっている．iPicss は岡山県地域医療介護総合確保基金を 2018 年度から 2020 年度まで獲得したため，2018 年度中に岡山県全域の周産施設への環境整備を進め，2019 年度より全施設への導入を行い，稼働する予定である．

---

This is an adaptation of the i- Perinatal integrated conveying sheet system (iPicss) that can be used for sharing information involving the emergency transport of pregnant women and for information exchange between emergency services and those in need of perinatal or child care services. †NORIYUKI YAMASHITA・JOTA MAKI
‡Okayama University

## 4. 災害小児・周産期リエゾンの課題点

岡山県におけるリエゾンが抱える課題点を 2018 年 7 月の西日本豪雨時の活動から洗い出した．洗い出し方法は，リエゾンとして活動を行なった共同演者の産婦人科医師とディスカッションを行う形式で行なった．

**課題点**

リエゾンの枠組みはあったが実働したことがなく，全て初めての経験であったため，小児ならびに周産期について，災害時の情報収集方法が確立されていなかった．加えて，収集した情報の共有方法が確立されていなかった．

## 5. 収集すべき情報について

iPicss の通常モードでは，産前・産後の緊急事態に特化した情報を紙ベースの搬送シートに記入し，撮影したものをデータ送信する方法であったが，災害時はシートの使用自体ができない状態と考えられる．（浸水など，紙媒体の使用不能状態）．一方，第 6 回晴れやかネット研究会[4]での報告の通り，情報端末（特にスマートフォン：以後、スマホ）は災害時に，第 1 に持ち出す道具であることが報告されている．そこでリエゾンとして最低限だけど最大限必要な情報を情報端末から入力し送信できる仕組みに変更し，画面を構成した．図 1 に記す．

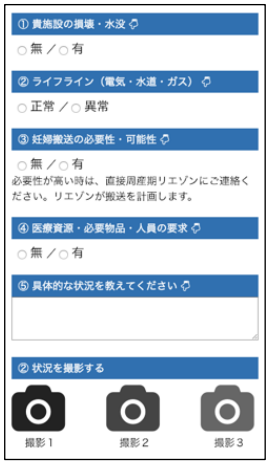


図 1　iPicss 災害モード画面構成（案）



Copyright ©2019 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

## 6. iPicss の転用に関する全体構成

情報収集ならびに共有の仕組みをゼロから構築することは予算および期間を考えても現実的ではないと考え，iPicss をリエゾン用に転用する構成を検討した．全体構成（案）を図２に記す．かかりつけ医療機関は iPicss 災害モードを利用し，災害時の状況をリエゾンに情報提供する．

また，リエゾンは，収集した情報を各責任者へ定時情報伝達を行い，各責任者は医療従事者へ辞令交付し派遣する．そして，既存の岡山県内全産婦人科施設へメーリングリストを活用し，情報提供を行う．加えて，現場レベルへの情報提供方法として，iPicss 用に設置した情報端末へメールを送る．iPicss 用情報端末は，メールアドレスをそれぞれ一意に有している．

図２ 搬送元施設用アンケート

## 7. おわりに

現在は，iPicss 開発チームとリエゾンに参加した医師とのディスカッションで小児・周産期の災害情報収集と共有の構成を検討した．次年度以降，災害訓練等でシミュレーションの機会があるものと考えられるため，次回は，その辺りの報告ができるものと考えている．

## 8. 参考文献

[1]山陽新聞　西日本豪雨特集
https://c.sanyonews.jp/gou_graph/
[2] 情報処理学会：研究報告情報システムと社会環境（IS），2017-IS-142(6),1-6（2017-11-25），2188-8809
[3] 第 80 回全国大会講演論文集,2018(1),417-418（2018-03-13）
[4] 山陽新聞　2018 年 12 月 16 日（日）20～21 面



Copyright ©2019 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.